SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financel Brain　豊島 健治

金融トピックス（９７／５）

ひび割れた「ハート」と「ひまわり」

年金生活者などの低金利預金、一般個人や中小企業の高金利借入、そうした「貧者の贈り物」をこっそりと闇の世界に給付・償却していた「ハートの銀行」。一般小口投資家を「ドブ」「ゴミ」と蔑笑し、密かに特定の「ＶＩＰ」に利益を供与してきた「ひまわりの証券」。

“ツケ”をいつも私達に回してくる、こうしたビッグ・カンパニーの所業を決して忘れはしない。

揺らぐ低金利シナリオ

「債券相場はバブルもどき」というレポートを書いたその週を底に、長期金利が上昇に転じ、日産生命の破綻がそれを加速し、国債指標銘柄で０．６%強の上昇となった。

これは国債需給に支えられた低金利シナリオが崩れたのであって、長期金利の行きすぎた低下が修正されたに過ぎない。

従って、本格的な金利上昇はまだ始まっておらず、ただ長期金利が底を打ったことが確認されたのだと思う。

前期銀行決算、その特徴

銀行の前期決算が先週発表された。後日詳しい分析をして見たいと思うが、その特徴は概ね次のようにまとめられると思う。

①超低金利によるメリットが限界に達した。利鞘の縮小と債券売買益の減少がそれを現している。②銀行間格差が一層拡大した。全体では不良債権償却は峠を越えたようだが、引当て率に大きな差があり、個別行の経営不安は解消していない。③総じて自己資本の不足が鮮明となった。不良債権償却が原因で広義・狭義の自己資本をかなり食いつぶした。単純に増資出来ない環境下で、今後自己資本の拡充が大きな課題となる。④日債銀関連ノンバンクが破産で突然不良債権にカウントされる（それまでは何故か健全債権だった）等「隠れ不良債権」が依然として不分明で、情報開示の姿勢に変化は見られなかった。

ざっとこんなイメージを抱いた。金融の本格的グローバル・リストラはこれから始まる。

シティバンク、住宅ローンでも攻勢

２４時間ＡＴＭ稼動、海外送金料引下げ等で邦銀を揺さぶるシティバンクが、６月より住宅ローン金利を大幅に引下げる攻勢にでた。

１年物１．２%、３年物２．４%、５年物２．７%（いずれも同期間固定金利）で９月末まで実施する。日本の金融機関と比べて見れば分かるが、１%程度低い金利だ。

長期金利が上昇し始めた中、一斉に金利引上げを進める日本の銀行の逆を行くことで、更に個人顧客を獲得することが狙いだろう。

不良債権償却等で邦銀がもたついている間に、外資系が着々と布石を打っている一例である。

中堅生保、格付け取得へ

先週号でも記載したように、未だに格付けを取得していない生保が多い。しかし、日産生命の破綻を機に、契約者の信用の繋ぎ止めるには格付けの取得が必要との認識が強まり、一部中堅生保は格付け取得に動くようだ。

格付けの取得は、それを通じて自らの体力が世間に露になる。取得に慎重な生保と取得に前向きな生保が明らかになり、信用格差が鮮明になるだろう。

そうした中で、２８日Ｓ＆Ｐ社は生保の支払能力を示す格付けを発表した（公開資料に基く勝手格付け）。そこでは千代田、協栄、東邦、日本団体の４社がシングルＢと認定され一段と苦境に追い込まれそうだ。

実際、日産生命処理策が迷走する現実を見せつけられると、契約者も不安になる。日立製作所や日産自動車に“ツケ”を回そうと汲々としている生保業界や当局には、最早当事者能力はないのかもしれない。

日銀、「世襲」を断念

日銀出身者が頭取職を「世襲」して別名「日銀銀行」と言われた千葉銀行に生え抜き頭取が誕生した。

前頭取も日銀から後任頭取を探そうとしたが、折りからの天下りに対する厳しい批判から断念したのが真相のようだ。

ビッグバンを控え県内リーディング・バンクとしての地固めを計る同行に、日銀の看板は最早不要ということかもしれない。

TEL. 0438－53－6092　FAX. 0438－53－6096
Nifty－ID BZH10642　E－mail f3583079@nv. aif. or. jp